

災害メモリアルアクションKOBÉ

兵庫県立舞子高等学校

目的：災害時、その人にとって
ベストな選択をとって後悔しないほしい



身近とは？

今年アウトプットの目標を「災害は身近にあることを知ってもらう」と決めました。生き抜くためには、身近に感じる必要があると思ったからです。チーム内で何度も話し合いを重ねましたが、意見がまとまらず悩みました。様々な意見が出ましたが、私たちの中の身近は、いつか絶対に発生する災害についてずっと考えるのではなく、「ふとした瞬間に思い出すこと」とであると定義しています。

兵庫県立舞子高等学校の紹介

昨年度に引き続き、今年度も各学年の環境防災科の生徒11名が参加させていただいています。災害を身近にするにはどうすればいいのだろうと活動してきました。

インプット

1、「語り継ぐ」

震災を経験した身近な人から聞いた話を高校生が文章にした舞子高校独自の冊子を読み、まとめました。



2、ヒアリング

9/26と10/10に2人の教員の方を対象にヒアリングを行いました。災害時に学校として取るべき対応を教えてくださいたり、ご自身が災害を身近に感じる瞬間について教えてくださいたりしました。また、災害を身近に感じてもらうには興味を持ってもらったり、些細なことに疑問を持ってもらったりする必要があることなどを聞きました。

松帆小学校

(授業内容)

1 学校紹介

2 防災〇×クイズ

→阪神・淡路大震災の時のことや非常用持ち出し袋に入れるもの、津波は一度来たらもう来ない？などの問題を出しました。

3 津波について

→津波のメカニズムを模型を使って説明したり、津波に関するクイズをしました。

西淡志知小学校

(授業内容)

1 学校紹介

2 阪神・淡路大震災について

→自助・共助・公助について説明しました。

3 災害について

→災害とは何か、とるべき対応はどんなものか紹介しました。

4 防災〇×クイズ

アウトプット in南あわじ市

反省

～インプット～

・もう少し早く行えば後のことを考える時間ができた。

・インタビューの時スムーズに

・インプットの量、考え方

～アウトプット～

・準備・知識不足

・時間が余った

・問題が被った

→伝わったことの確認になった

・言葉遣いと言い回し

～全体・まとめ～

・共通の認識ができていなかった
→情報共有の方法を見直す

・効率よく→時間と仕事の割り振り

・計画性→スケジュール管理